

不登校や出席停止等の生徒への学習保障の事例について

【大田区の取組】

不登校児童・生徒の状況

本事例の学校における不登校の生徒は、人間関係を築くのが不得手で集団になかなか馴染めない生徒や、小学校から不登校を継続している生徒がいる。不登校の生徒は、学習の遅れを気にしている場合が多く、不登校が長期化する一つの要因となっている。また、新型コロナウイルス感染症に対する不安から保護者や本人が登校を敬遠しているケースも増えてきている。不登校の生徒に対する学習を保障していくことで、学校への復帰が円滑に進みやすいと考えている。本事例の対象生徒は、人間関係を築くのが不得手で集団になかなか馴染めず、一斉授業への参加を避けている。また、学習の遅れを気にしているために、不登校が長期化している生徒である。

具体的な支援

本事例の対象生徒への支援について、校内の不登校対策会議（ケース会議）を実施し、対象生徒の「学習の遅れに対する不安感の軽減」を目的に、次の2点の支援を実施した。

1 授業のオンライン配信

オンライン授業配信表を作成し、対象生徒に事前に授業予定を周知した。学習予定が見える化し、対象生徒は見通しをもって学習に参加できるため、不安感の軽減につながっている。

オンライン授業では理科など、実験や実習がある教科で特に効果的である。実験や実習は、授業に参加している感覚が掴めるようで、対象生徒のみならず、オンライン授業を視聴している生徒の多くが興味を示している。



授業の配信の様子

※中央のタブレット端末で、教師の発問や板書を配信している。

2 授業で配布するプリント専用の回収箱の設置

各授業で使用するプリント類について「毎週月曜日に回収、火曜日に配布」というローテーションを確立した。プリント類の配布方法については、「生徒や保護者が取りに来るか、教職員が届けるか」について家庭と連絡を取り合い、確実に対象生徒に届くようにしている。

学習したプリントは、放課後に本人または保護者が持参し、教科担当が採点、評価を行った上で家庭に戻すことで、学びのフィードバックを行っている。

また、放課後の時間を利用し、補習という形で教科指導や学習以外の相談等のカウンセリングを行っている。

成果

対象生徒が、オンラインでの朝学活等に参加することで、クラスの受容的な雰囲気伝わった。対象生徒に集団への帰属意識が芽生え、生徒同士のきずなづくりが進んだことで、学校復帰へつながった。

課題

オンライン授業は、受信者側にかなりの集中力が必要となり、1日の授業参加時間に限界がある。教科への不得手感が増していかないように指導方法を工夫できる指導者の力量が必要である。